

■事件、事故を未然に防ぐための対策（防犯対策等）

項目	内 容
日常巡視	毎日1回、職員により園内のパトロールコースを巡視し、施設の状態を目視で確認
施設点検パトロール	通常のパトロールとは異なる視点によるチェック。当協会全体で本部職員や他の公園職員による点検を年1回実施
防犯上の死角の減少	日常パトロールや園内利用者からの情報により、園内の樹林地や生垣の見通し確保、園路灯の点灯チェック、トイレ周辺等の死角の減少を図る
不法投棄、破壊行為等の早期発見・早期処理	ゴミや不法投棄、放置自転車やバイク、落書き、破壊行為の長期間の放置などを早期発見・早期処理し、犯罪をよびこまない雰囲気づくり
地域住民や関係機関との情報共有	地域住民や警察署や消防署との連携により、地域や近隣自治会との防犯情報の共有に努める
利用指導による防犯	園内における花火、ホームレスの宿泊、未成年者による飲酒行為、自転車等の乗り入れ等に対し、警察署等とも連携して利用指導を行う
緊急車両の進入路の確保	事件事故の発生時に備え、警察、消防車両が園内に侵入できる範囲を把握し、日頃から障害物や支障枝等を取り除き進入路を確保する
園内サインポストの表示	事故等が発生した場合、その発生場所を正確かつ迅速に把握するため、園路上にサインポストを立て位置情報と緊急連絡先を表示

■施設の安全対策

夏休みや秋の観光シーズンの駐車場渋滞対策など、施設の特性や利用動向をふまえた適切な安全対策を講じます。

○駐車場における安全対策

「芦ノ湖夏まつりウィーク」や「東京箱根間往復大学駅伝競走」開催時には、駐車場待ちや見物客の車で周辺道路が渋滞するため、必要に応じて国道に交通誘導員を配置して交通整理を行います。



駐車場入口の交通整理

施設毎の安全確保のポイント	
芝生広場	<ul style="list-style-type: none"> 芝生の踏圧防止マットの固定金具の点検 利用者がけがをしないよう、ゴミ、異物の回収
樹林地 ・ 植栽樹木	<ul style="list-style-type: none"> 枯損木や枯枝、倒木の発生の可能性が高いエリアは特に重点的なパトロールを実施。特に強風や大雨後には点検・巡査を実施し、倒木等を早急に処理 接触事故防止のため、園路沿いにはみだした枝を重点的に刈り込み 危険な生物（スズメバチ等）の目撃情報の収集と早期発見、駆除 危険斜面の整備、危険樹木の早期発見、早期報告
園路・階段	<ul style="list-style-type: none"> 未舗装園路の敷き砂利流出や陥没による不陸等の点検、補修 木製階段の腐朽、ボルトの緩みなどを重点的に点検
池	<ul style="list-style-type: none"> 池の周囲の手すりの点検の実施 堤体にひび割れ等の異常がないか等の点検の実施

○保険への加入

事業や施設利用の際、万一、当グループの過失によって利用者に損害を与えた場合に備え、施設賠償責任保険に加入します。

また、施設賠償責任保険でカバーできないケースに備えて、当グループ直営で製造、販売した食品に起因した食中毒に対する生産物賠償責任保険及び、当グループ主催のイベントでの事故に対する傷害保険（イベント保険）に加入します。

■火災への対策

消防法に基づく「消防計画」を建物施設の災害対応マニュアルとして活用します。また、建物施設が改修された場合等には必要に応じて計画の見直しを行います。

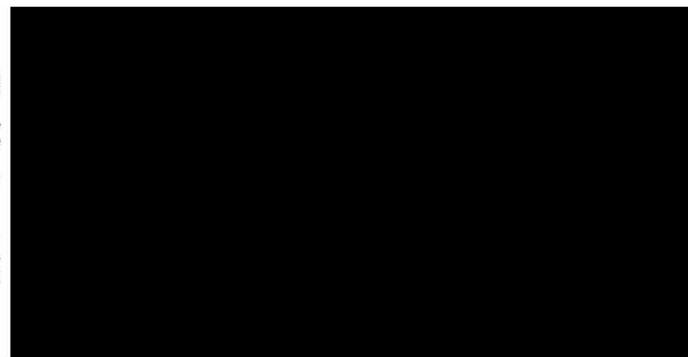
定期的に消防設備の点検を行うとともに、必要に応じて箱根町消防本部の指導を受けるほか、消防署と連携して消防訓練を行うなど、火災への対策を継続します。

■維持管理業務における日常の作業の安全対策

利用者に対する安全確保		<ul style="list-style-type: none"> 園内作業車走行時のハザードランプの点滅、速度順守 作業時における注意看板、立入防止柵などの設置 小石や障害物の飛散防止機能がついた刈払機の使用
作業員の安全確保	作業スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のスタッフミーティングにおける作業内容と安全の確認 高度な技術、資格等を要する作業については、専門業者に委託
	委託業者	<ul style="list-style-type: none"> 労働関係法規遵守の指導（日々の作業状態のチェック）
	ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策は責務として位置づけ (当協会で定める [REDACTED]への明記) 作業中の行動内容を把握し、連絡体制を明確化 ボランティア保険加入を促進

■安全管理のマニュアル等の整備

当協会全体または本公園職員全員が安全管理の意識を共有し、一貫した対応とチェック体制をつくるため、右のような各種マニュアル等を整備しています。これらは必要に応じて内容を見直し、更に改善していきます。



■安全対策研修の実施

労働安全衛生や作業用機械の操作、薬剤の散布などに関して、下記のような職員研修の実施やOJT、外部講習への参加により、安全意識の向上を図ります。

新規採用者に対する安全衛生教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生規則第35条に基づく安全衛生教育を実施
OJT等による日常的な研修	<ul style="list-style-type: none"> 危険予知訓練(KYT)を定期的に管理事務所内スタッフで実施 スズメバチ等危険生物への対処方法の内部研修を実施
必要に応じた外部研修の受講	<ul style="list-style-type: none"> 農薬の安全講習会（外部講習 県実施の「防除関係者講習会」）を受講 資格、特別教育等が必要な作業（刈払機、振動工具、チェーンソー、丸のこ等）については、その作業をする職員全員が専門機関の講習受講

提案書9 「事故、異常気象等(水防を含む。)の緊急事態が発生した場合の対応方針」等

(1) 事故、異常気象等(水防を含む。)の緊急事態が発生した場合の対応方針

事故の発生時には、事件・事故対応マニュアルに基づき利用者の安全確保を最優先とした迅速な対応が必要です。

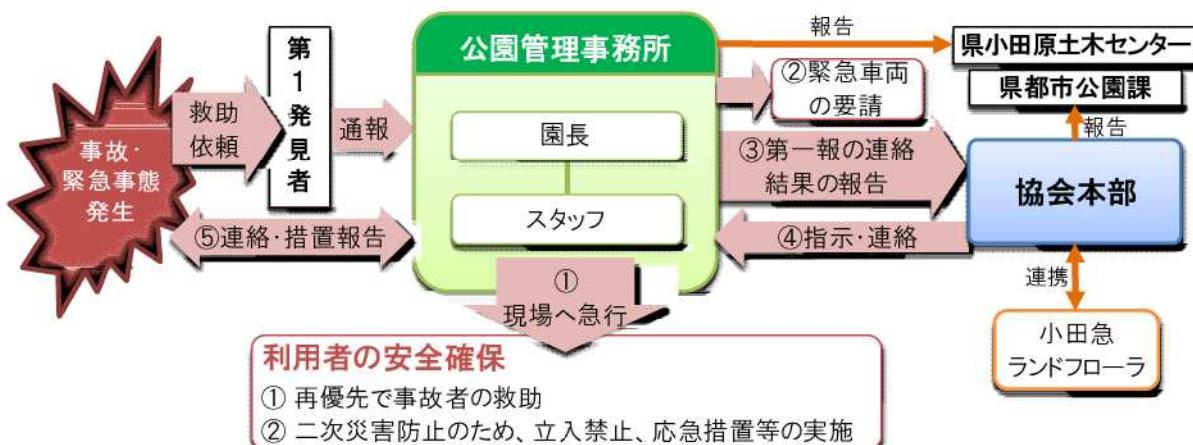
また、当協会では「県立都市公園等における災害活動対策指針」を策定し、様々な災害に的確に対応する体制を整えています。災害発生時には、協会本部や警察・病院等の関係機関とも連携しながら被害の拡大や二次災害の発生を極力抑止し、事態収拾後には再発防止を図ります。

特に本公園は、標高700メートルに位置し、気象の変化が激しいため、様々な気象警報に十分注意して発令時や解除後には適切な対策をとります。

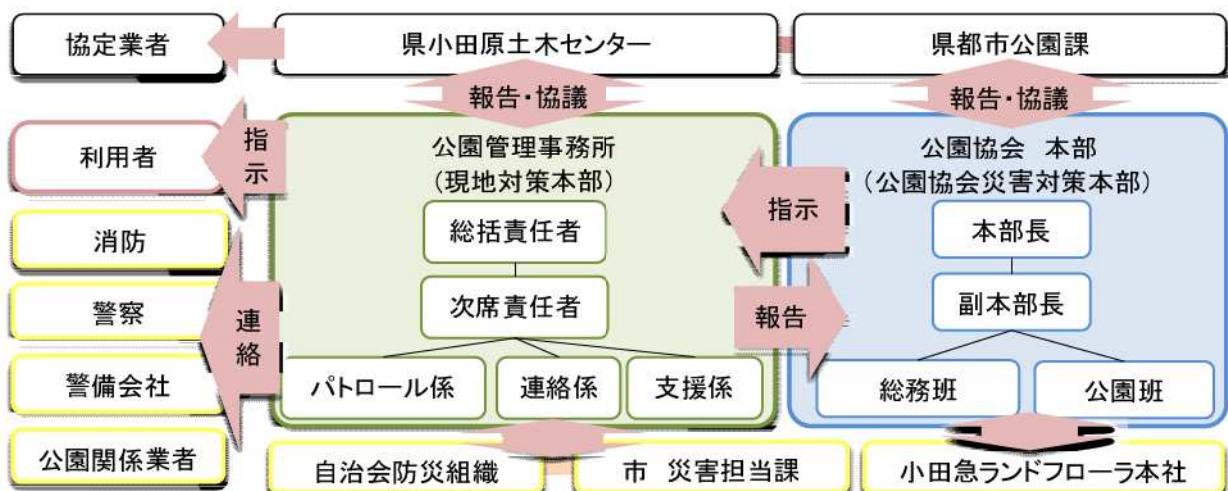
■事故や災害発生時等の緊急時の体制及び初期対応

事故や災害等が発生した場合、園長（不在時は参集したスタッフの中の上位者）を現地の総括責任者とし、あらかじめ定められた役割や手順に従って速やかに対応します。

○事故発生時の基本的な対応の流れ



○災害発生時の組織体制・連絡フロー



○職員の役割分担

役割分担	役 職	緊急事態発生時の初期対応
総括責任者	園長（不在時は、副園長）	情報収集、伝達、連絡体制等の総括し、県小田原土木センターや本部へ状況報告する
次席責任者	副園長（不在時は、公園管理主任等）	現場状況を把握し、隨時、管理事務所に報告し、現場の指揮にあたる
パトロール係	公園管理主任、パート職員	園内等のパトロールを実施し、被害状況を確認 必要に応じ被害箇所への応急処置を実施する
連絡係		通信手段等を確保し、災害情報収集や利用者に対する園内放送を実施する
支援係		避難した方への応急手当や市や県への支援活動を実施する

○夜間および年末年始の対応

夜間は、機械警備を作動させています。緊急事態が発生した場合には予め整備した緊急連絡網により、警備会社より園長または副園長等が連絡を受け出勤します。年末年始には、駐車場担当職員が園内巡視にあたり、年末年始当番表により公園職員が現場へ急行できる体制を取るとともに、本部職員も当番表に従い緊急時に備えます。

■避難誘導、公園の利用制限等を考慮した連絡方法及び対応

避難誘導が必要な場合には、総括責任者の指揮監督のもと避難誘導にあたります。職員が園内を巡回し、被害者の有無や被害状況の確認を行うと同時に避難を呼び掛けるほか、園内放送でも繰り返しアナウンスを行います。

被害が拡大する恐れのあるエリアについては、立て札や立入禁止のロープを張るなどして利用制限を行い、二次災害を防ぐための対応を行います。また、臨時休園する場合には、ホームページ等に情報を掲載し、広く周知を図ります。

■暴風大雪警報をはじめとする気象警報等の発表時の対応

気象警報が発表された場合、必要に応じて園長が総括責任者として職員に参集を呼びかけ、対応にあたります。

利用者に対して園内放送などで警報が発表されたことを繰り返し周知するとともに、速やかに避難するよう促します。

大雨、大雪、暴風警報が発表された場合	危険が差し迫っている場合を除き、職員がパトロールを実施して園内の安全確認を行い、必要に応じてセイフティーコーンやバーなどで立入禁止の措置をとる 特に大雪のおそれがある場合は、HP上で道路交通情報センターのサイトなどを紹介する（園長と要確認）
雷注意報が発表された場合	速やかに雷注意報の発表を利用者に知らせ、注意喚起を行う 雷鳴が聞こえてきたら、建物内など安全な場所への一時避難を促す
土砂災害警戒情報への対応	土砂災害警戒情報が気象庁と県から発表された場合、利用者だけでなく職員も斜面地等に近寄らないように周知する。解除後には、斜面地のクラック、漏水の有無等パトロールを実施する
その他の異常気象等への対応	竜巻注意情報が発表された時、県から光化学オキシダント緊急時措置情報が発令された時などは、園内放送により利用者に注意喚起する

(2) 急病人等が生じた場合の対応

園内で急病人やけが人が生じた場合には、「事件・事故対応マニュアル」に従い迅速に対応します。職員が病人の状況を把握した上で、病院や消防に連絡するほか、必要に応じて心肺蘇生やAEDの利用などの応急措置を施します。

■急病人が生じた場合の具体的対応

急病人・けが人が発生した場合、以下の手順に従って的確な処置を行います。

I 状況確認	・職員が現場に急行し、急病人の状況を確認する
II 応急手当	・呼吸、意識の確認 ⇒呼吸、意識がない場合、心肺蘇生の実施やAEDの活用 ・熱中症の場合 湖畔展望館内へ搬送、夏期に常備する氷で冷やす、など
III 救急車の要請	・必要に応じて救急車を要請し、進入路を確保する
IV 報告	・事態収拾後には、県小田原土木センター、協会本部へ対応結果を報告する

■急病人発生に備えた対策

○AED、救急箱等の設置

管理事務所内にはAEDを設置しています。また、園路沿いや掲示板にはAED・救急箱を設置した最寄り施設を掲示しています。

本公園は町の中心部から離れているため、全スタッフに上級救命救急技術を取得させて、緊急時に落ち着いて急病人に対応できるようにしています。

■救命に関する職員研修など

応急手当に関する知識や技術を学び、身に付けておくために、定期的に救命に関わる講習会等を受講します。

○上級救命講習の受講

公園管理主任以上の職員は、3年に1回、応急手当、けがの対処、心肺蘇生法、AED取扱いなどについて学ぶ上級救命講習を受講し、資格を取得しています。

これにより、当協会では管理する全施設に上級救命講習受講者を配置しています。

○防災訓練等におけるAED取り扱い訓練の実施

毎年、実施する防災訓練の中で、避難訓練、消火訓練、AED取り扱い訓練等を行い、パート職員含めた全職員がAEDを操作できるようにしています。

◆◆ AEDによる救命活動 ◆◆

平成24年6月、当協会が指定管理者として管理する県立座間谷戸山公園において、座間市が設置管理を行うテニスコートで利用者に急病人が発生、当協会職員がパークセンターに常備するAEDを使用して救護し、一命を取りとめました。

この救命救護活動により、当協会職員2名が、座間市より表彰を受けました。



表彰の様子 (H24 広報さま)

提案書 10 「当該公園の「震災時対応の考え方」に示す初動体制等への対応、
大規模災害発生時の公園の特性、立地状況等に応じた災害対応の考え方」

(1) 当該公園の「震災時対応の考え方」に示す初動体制等への対応

当協会では、既に「県立都市公園等における災害対策活動指針」を整備し、災害発生時の各公園と協会本部の対応、及び連絡体制を明確にしています。

今後は、震災時の対応として、①利用者をいかに安全に避難誘導するか、②発生時の県や市への協力体制の発揮を重点に、県が作成した「震災時対応の考え方」、及び上記指針に則り、地震の発生時間、震度に応じた下記の具体的対応を図ります。

■ 大規模地震発生時の参集体制と配備体制

■ 町内で震度5弱以上もしくは県内で震度5強以上、大規模災害発生の場合

【勤務時間内発生時の対応】

- 原則、当日勤務している全職員が以下の「配備体制」に基づき対応します。

【勤務時間外の参集体制】

- 公園管理主任以上の職員があらかじめ決められた自宅の最寄り公園に参集

- ・公園管理主任以上の職員は年1回以上、最寄り公園等の緊急参集訓練に参加し、参集先公園の鍵の保管位置や放送設備の使用方法について習得します。

- ・職員は [REDACTED] を携帯し、緊急時に落ち着いて適切な行動がとれるようにします。

- ・職員は参集し次第、役割分担に従い初動体制を県小田原土木センターと協会本部に報告します。

- ・震災発生後、[REDACTED]

[REDACTED] が配備もしくは兼務します。なお、[REDACTED]
が配備につきます。

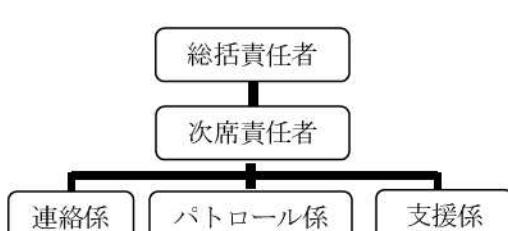
【配備体制】

- 本公園に現地対策本部を設置、公園協会本部には災害対策本部を設置

□ 震災時の人員配置体制

- ・総括責任者として園長が対応にあたりますが、園長が参集するまでの間は次席責任者が総括責任者を担当します。

- ・勤務時間外発生の場合、通常勤務開始時間を持って、時間外参集要員から本公園所属職員へ速やかに業務を引き継ぎます。



係名	主な業務
連絡係	情報の収集と報告
パトロール係	園内巡視、被害報告、利用者誘導、応急対策実施など
支援係	園内施設の点検、救援活動、物資の管理など

【情報の収集と提供】

- テレビ、インターネット、ラジオ等から広域及び周辺の被害状況、津波発生の有無等、継続的に情報収集し、園内放送や掲示により利用者への情報提供を行います。

- 公園内の被災箇所の情報を収集します。

【避難誘導準備】

- 勤務時間中の場合、駐車場や湖畔展望館は営業を即中止し、町民や観光客等が本公園に車で避難してくることを想定し、駐車場ゲートバーは開放、園内利用者には避難誘導を開始する旨の園内・館内放送を行います。

■警戒宣言発令時（東海地震予知情報）

東海地震に関する「警戒宣言」が発令された場合には、上記の震度5弱以上の地震発生時における初動体制と同様の配備体制を確立します。

○警戒宣言発令時の対応

- ・テレビ、ラジオ、インターネット等から情報を随時、正確に入手し、利用者へ冷静な対応を促します。
- ・消防用設備等の点検、作動確認や非常用備品の確認を行います。
- ・鉄道・バスの運行休止や幹線道路の通行止め等により帰宅が困難な利用者に対しては、湖畔展望館を開放する等の安全確保に努めます。

（2）大規模災害発生時の公園の特性、立地状況等に応じた災害対応の考え方

本公園の歴史は災害の歴史でもあり、かつての離宮は、関東大震災や北伊豆地震によって建物が相次ぎ被災したために使われなくなった経緯があります。

現在、国道1号に沿った北伊豆断層が想定されています。箱根は東海地震の恐れだけでなく、箱根火山の活動等に起因する直下型の断層地震も想定されます。

本公園は広域避難場所に指定されていませんが、大規模災害発生時には、避難施設から分断される恐れもあり、帰宅困難者や地域住民が多数避難してくることも想定されます。また、本公園は関東近県を含めた小・中学校等の校外活動での団体利用が年に約200校もあり、一度に大勢の帰宅困難者が発生する恐れもあります。



北伊豆地震によって倒壊した離宮の日本館

■災害に備えた事前対策

普段から必要な機器設備の点検と適切な維持管理を行うとともに、常に最新の地震情報を利用者に提供できるよう必要な情報の収集に努めます。

○災害情報の受発信

地震警報機能付きラジオやテレビ、携帯電話への災害情報配信メール、SNS等を活用し、起こりうる災害の情報収集を絶えず行います。

○災害対策マップの活用と更新

園内の防災設備の位置、避難場所までの経路等を明示した災害対策マップを作成し、緊急時に利用者が迷うことなく安全な場所まで避難できるよう、掲示板などに明示します。

また、公園周辺も含め、公園の改修工事の結果や周囲の状況変化に応じて適宜改訂します。

○一時避難場所としての食料、飲料水の備蓄

地域住民の避難者だけでなく、帰宅困難が想定される公園利用者や学童等を想定した食料、飲料水の備蓄を行います。

■地域と連携した災害対策

災害時に限られた職員でも迅速かつ的確な対応がとれるよう、日常から利用者や箱根町と協働で防災訓練を実施するなどして連携を深めます。

また、本公園から旧箱根小学校等の避難施設への誘導方法や帰宅困難者受け入れ態勢については、事前に箱根町と調整して備えるとともに、災害による被害状況や避難経路について迅速に避難者へ提供する為に発電機やハンドマイク等を備えます。

■日常訓練の充実

緊急時に利用者を安全に避難誘導できるよう、日頃から定期的に訓練に参加したり、独自に訓練を実施します。

○全スタッフによる日常訓練

消防署や地域の協力をえて、全スタッフが参加して、年1回防災訓練を実施しています。平成25年度は火災発生時を想定し、避難訓練や消火訓練などを2回行いました。



自衛消防訓練の様子

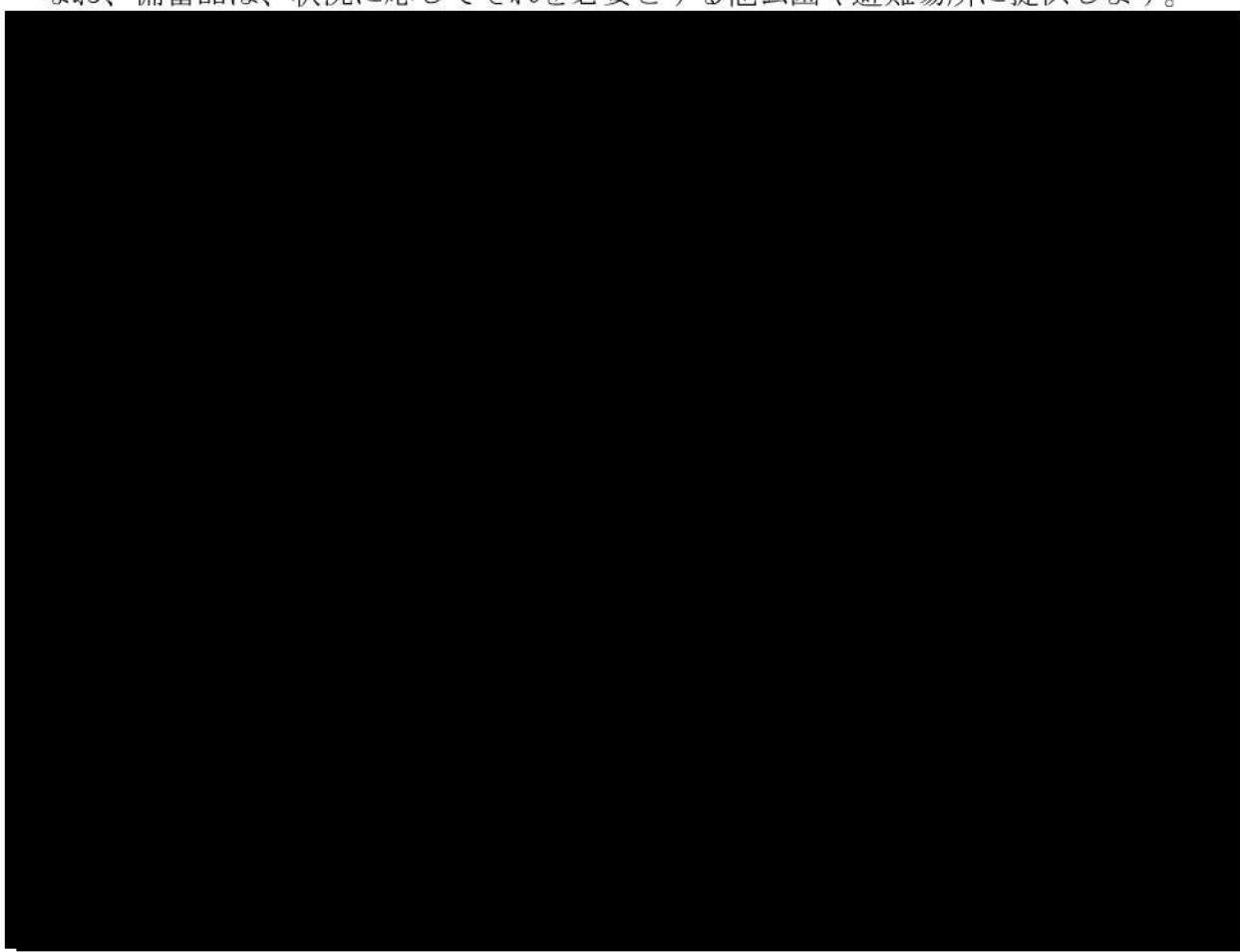
○利用者と一体となった避難訓練

訓練当日の利用者に協力をいただき、避難訓練に参加していただきます。

■災害対応物品の独自の備蓄

備蓄に当たっては、当協会の自主財源を活用して独自に行います。

なお、備蓄品は、状況に応じてそれを必要とする他公園や避難場所に提供します。



○災害用自動販売機の設置

災害時に無料で飲料が供給できる「災害支援型ベンダー」を設置し、緊急時には園長の指示により自動販売機内の飲料を確保できる体制を整えます。



災害支援型ベンダー

■災害発生時の協力等について

県小田原土木センターや箱根町の防災担当部局と連携し、速やかな災害対策活動が行えるよう、必要な連絡調整を行います。また、「震災時対応の考え方」で示された避難施設等とも連絡調整を図り、連携した災害対応を行います。

○災害復旧への協力

事態終息後には、県と指定管理者の役割分担に基づき対応しますが、県による被害箇所の本格復旧の際にも必要な協力をします。また、災害復旧活動拠点の指示を県や町から要請された場合、駐車場スペースの開放並びにテント・チェーンソー等の必要物資の提供及び救援活動への支援等も積極的に行います。



応援活動拠点として駐車場の活用をサポート

■職員への教育

当協会では大規模災害発生時でも迅速かつ冷静に対応できるように各種災害対策の教育を行います。また、公園毎にも、その特性や立地条件を考慮した職員教育を実施します。

○避難訓練・初動対応訓練

公園での避難経路の確認や職員の役割に応じた初動対応訓練を、年1回以上実施します。また、定期的に災害図上訓練も取り入れ、様々なタイプの災害に対応できる体制を構築します。

○参集訓練

勤務時間外に地震が発生したと想定して参集訓練を実施します。本公園職員以外の参集職員が放送設備の使用方法や扉の開錠方法等を学び、災害時に適切に対応できるよう訓練します。

○通信訓練・連絡体制確認

公園と本部相互の衛星電話等の通信確認、衛星電話の操作方法、緊急連絡網の再確認や再構築を実施するとともに、災害時でも冷静に状況報告ができるようにします。

提案書 11 「地域と連携した魅力ある 施設づくり」

(1) 地域人材の活用、地域・関係機関との協力体制の構築

本公園の管理運営には、国際観光地・箱根を愛する地元住民の協力が不可欠であるため、引き続き駐車場を含む公園の管理員として地元住民の雇用を図ります。また、公園のイベント開催においても地域住民の活動の場を提供します。

「箱根駅伝」「芦ノ湖夏まつりウィーク」「マスツリ解禁」などの地域事業の開催時には、従来同様、早朝や夜間に駐車場を開場し、臨機応変な対応で地域に貢献します。正月の「箱根駅伝」開催時では、早朝から駐車場を開場し、各大学の応援団等の関係者に配慮したきめ細やかな対応を今後も行います。

また、本公園の歴史や自然的な魅力を活用し、研究や教育の側面において教育機関などと連携した学習プログラムの展開を図っていきます。



公園前での箱根駅伝の応援活動をサポート

協働のテーマ	連携先
地域振興	箱根町観光協会
	箱根町国際協会
	地元商店
広報	小田急グループ
イベント	箱根町観光協会
	地域団体
	(公財)平岡環境科学研究所
	県、地元
	大学・研究機関
防災、防犯	警察署 箱根町消防本部

(2) ボランティア団体等との連携、協働及び育成

本公園は、国際的な観光地・箱根にあり、遠方からくる利用者が多いこと、そして「離宮の往時の景観を復元する」という方針上、業務に専門的なノウハウが要求されることから、ボランティア団体が組織されにくい構造があります。そのため、これまで本公園のイベントでは、地元の方に協力していただくことが主でした。

今後は、箱根で活動するNPO団体への活動協力や、箱根町観光協会ボランティアガイドへの情報提供などに努め、箱根で個々に活動する団体との連携強化を図ります。

協働のテーマ	連携先	
広報支援	箱根町観光協会ボランティアガイド	
活動支援	NPO法人「ときめき箱根」	
イベント	地元茶道家	

(3) 他の公園、周辺施設との交流・連携

■他の公園との連携

○「花とみどりのフォトコンテスト」の開催

県立都市公園や県立自然公園を舞台にした「花とみどりのフォトコンテスト」を開催し、毎年600点以上の作品応募があります。

作品は専門家による審査を行い、入賞作品展を、本公園を始め他公園や病院等で開催します。

○公園関係団体を通じた連携

公園関係団体で構成する首都圏みどりのネットワーク（首都圏公園緑地関係団体連絡協議会）や県・市公園緑地協会等連絡協議会の中で情報交換や他公園への視察を行い、引き続き管理運営に反映させていきます。



湖畔展望館で入賞作品展開催

■周辺施設との交流・連携

地域との連携は公園の魅力向上だけでなく、公園周辺の地域振興やエリアの周遊性を高めるためにも重要だと考えます。地元商店街や近隣の各施設とも相互の情報提供など連携を深め、エリア全体の観光振興への貢献を目指します。

今後は、平成25年に国の登録記念物（名勝地関連）に本公園と共に指定された強羅公園、箱根美術館とイベント、PR協力などで連携するほか、箱根ジオパーク、県西部地域ミュージアムズ連絡会加盟施設との連携を深め、相互協力を図っていきます。

協働のテーマ	連携先	
地域振興	強羅公園、箱根美術館	
	山のホテル	
	箱根関連交通機関・宿泊施設	
	箱根観光施設	
	箱根ジオパーク	
	神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	
	関所通り商店街	

(4) 地域企業等への業務委託による迅速、かつ、きめ細かいサービスの提供に向けた取組内容

地域の企業等は、その地域に精通していることで、迅速かつきめ細かい対応が期待できます。

私たちは、業務委託を行う場合には、今後も地域企業等への発注を優先的に行っていきます。さらに、地域雇用の確保、社会的ニーズへの対応といった観点から、地元非営利団体とも継続的に業務委託することにより地域連携を図ります。

湖畔展望館2階の「緑賜庵」では、抹茶とともに、地元和菓子店より地元の銘菓を仕入れるほか、地元業者より寄木細工ハガキセットなど仕入れています。利用者のニーズに応じた箱根の思い出となるおもてなしは、地元との連携により可能になるものと考えます。



寄木細工ハガキセット

(5) 企業のCSR活動（社会的責任、社会貢献）や学校等との連携

本公園は箱根に立地する近隣ホテルの組合や学校の活動の場として活発に利用されています。私たちは社会貢献の一環として、そのような活動を引き続き支援していきます。

■地域企業の社会貢献活動の受け入れ

近年、企業のCSR活動が活発化する中、本公園でも地元企業による研修を兼ねた清掃活動等の活動があります。今後も地元企業のCSR活動を受け入れ、その際、資材・機材の提供や技術指導を行うことにより、活発な活動を行えるようにサポートします。



■学校等教育機関との連携

本公園では、近隣の小中学校、高校の職場体験や様々な校外活動を受け入れるとともに、生き物や自然の大切さを学ぶ場を提供します。このほか、関東近県を含む年間約200校の小・中学校等の校外活動での団体利用も引き続き積極的に受け入れます。

また、かつての離宮の時代について依然として不明な点が多いため、地元や大学・研究機関等と協力を図りながら、さらなる離宮の新しい歴史の発掘に努めます。

また、こうした歴史、自然に関するフィールド調査を積極的に受け入れます。



中学校の職場体験学習

テーマ	連携先
社会貢献活動、学校活動の支援	近隣中学校
部活動の支援	近隣高校茶道部
科学研究	大学・研究機関



提案書 12 「適切な積算、節減努力等」

(1) 積算（内訳）において特に留意した事項

指定管理料の積算にあたっては、サービス水準を確保することを基本とし、維持管理費と人件費の確保に留意しつつ、経費節減の工夫も行いました。

収支計画書の各項目別に内容を十分精査し、本公園の管理運営に必要な費用を算出しました。

収入計画は、過去4年の実績額を参考に、今後の工夫により更に集客を図ることで駐車場収入、自動販売機利益の増加を見込んだ収入計画としました。

支出計画は、当協会の規程に基づく適正な人件費と積算資料等に基づく施工単価を用いて、必要な管理経費を計上しました。また、委託業務においては、低価格契約とならないよう配慮した価格で積算をしています。

(2) 経費節減について工夫した点、努力した点等

本公園の管理運営にあたっては、サービス水準をしっかりと確保しつつ、作業のやり方などを見直し、更に効率的な業務の実施を目指します。

■他公園との「備品・資材等の共用化」

当協会は県内で多数の施設を運営しており、各施設で様々な備品や資材を保有しています。イベント時に多数の備品等が必要になった場合に、スケールメリットを活かして相互利用する「備品・資材等の共用化」を積極的に進め、資材等の購入費用を節減します。

■費目ごとの経費節減策

費目ごとの具体的な経費節減策は以下の通りです。

事務費	<ul style="list-style-type: none">・自主財源でLED照明を導入し使用電力量を節減・競争原理の導入（入札、見積もり合わせ等）・受託者にも業務が計画的に見込めるメリットがある長期継続契約の導入・物品購入や機器リースにおける集約発注・リース機器の継続使用が可能な場合の再リース
植物管理費	<ul style="list-style-type: none">・刈込み物等の植栽は直営で実施
施設管理費	<ul style="list-style-type: none">・落ち葉や剪定材を腐葉土や工作の材料などに活用
清掃管理費	<ul style="list-style-type: none">・伐採枝は、樹木の支柱、土止め杭等に再利用・箱根固有種の繁殖を育苗から実施
利用促進費	<ul style="list-style-type: none">・除雪や凍結防止対策は、機械除雪が必要な駐車場等を除き直営で実施・ワックス掛け等の専門業務を除き、日々の簡易清掃等は直営で実施・公園だより等の配布パンフは、直営で作成、印刷、配布を実施
人件費	<ul style="list-style-type: none">・繁忙期、閑散期に応じた柔軟な人員配置の継続・イベント等の利用者を予測し、メリハリの利いた人員配置

<付属書類> 収支計画書・支出計画算出根拠・収入積算内訳書（別添）

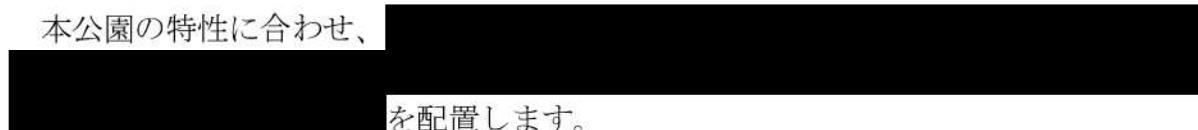
提案書 13 「人的な能力、執行体制」

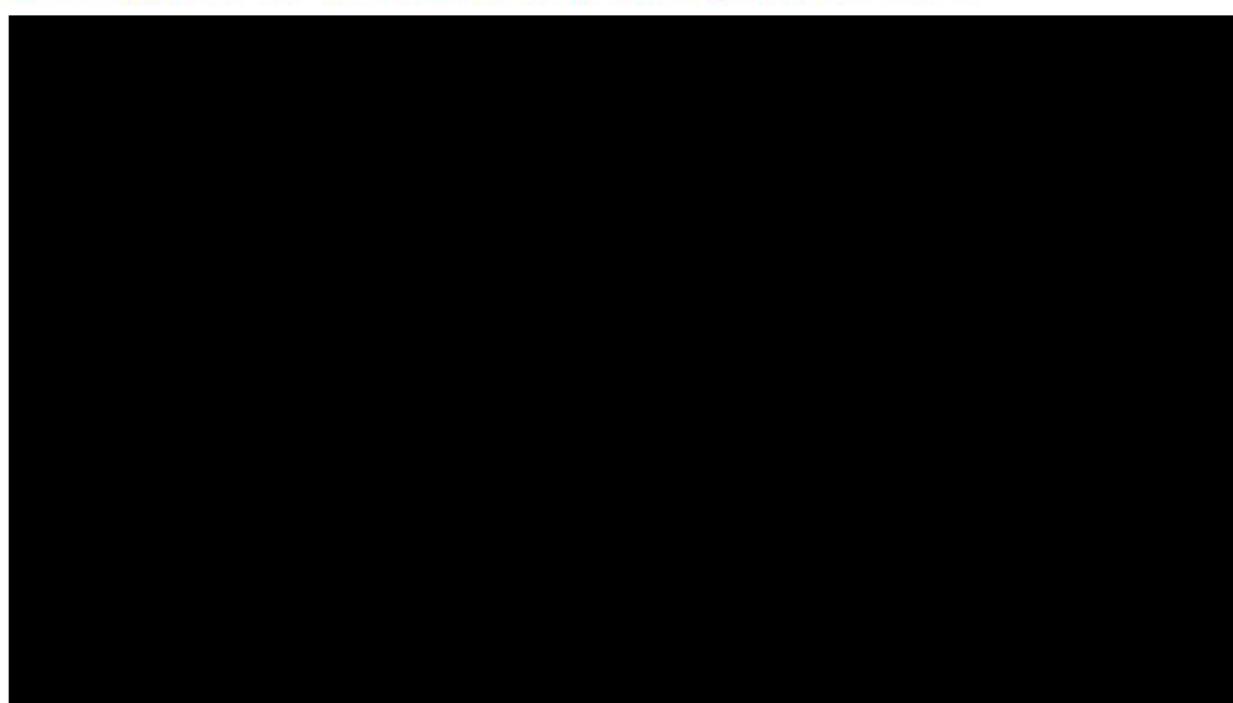
(1) 指定期間を通じて効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員配置等の状況

本公園において、県、県小田原土木センター、公園協会本部、小田急ランドフローラ本社としっかりと連絡体制をつくり、効果的・効率的な管理運営を行います。

■現地責任者の役割及び経歴、主要職員の役割分担**■公園管理運営士、造園技能士、造園施工管理技士等公園の管理運営に係る有資格者の配置状況**

本公園の特性に合わせ、

を配置します。

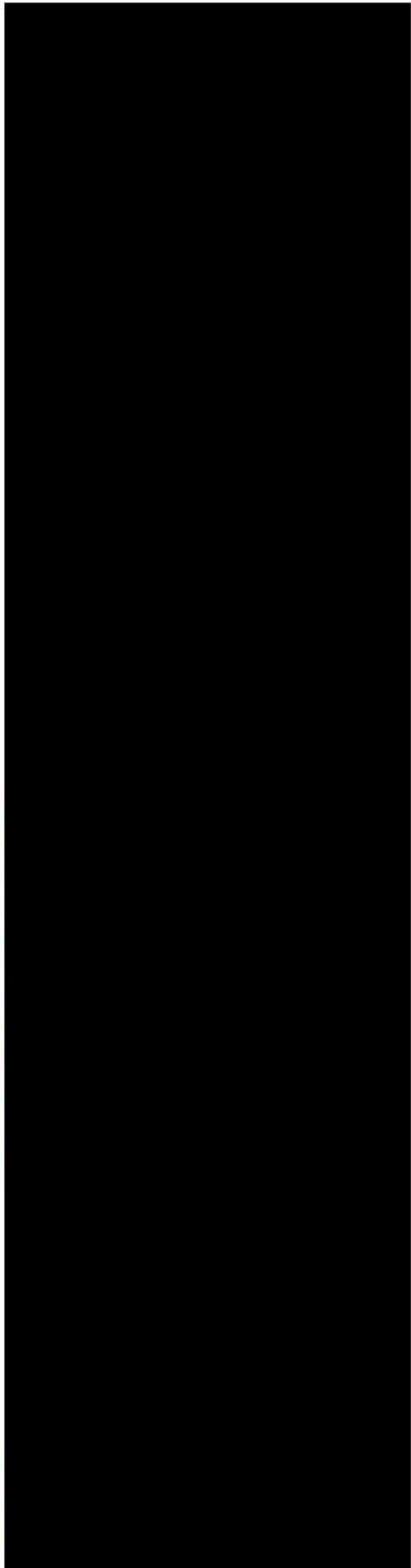
■県、県出先事務所、指定管理者本部、指定管理者現地との連絡体制



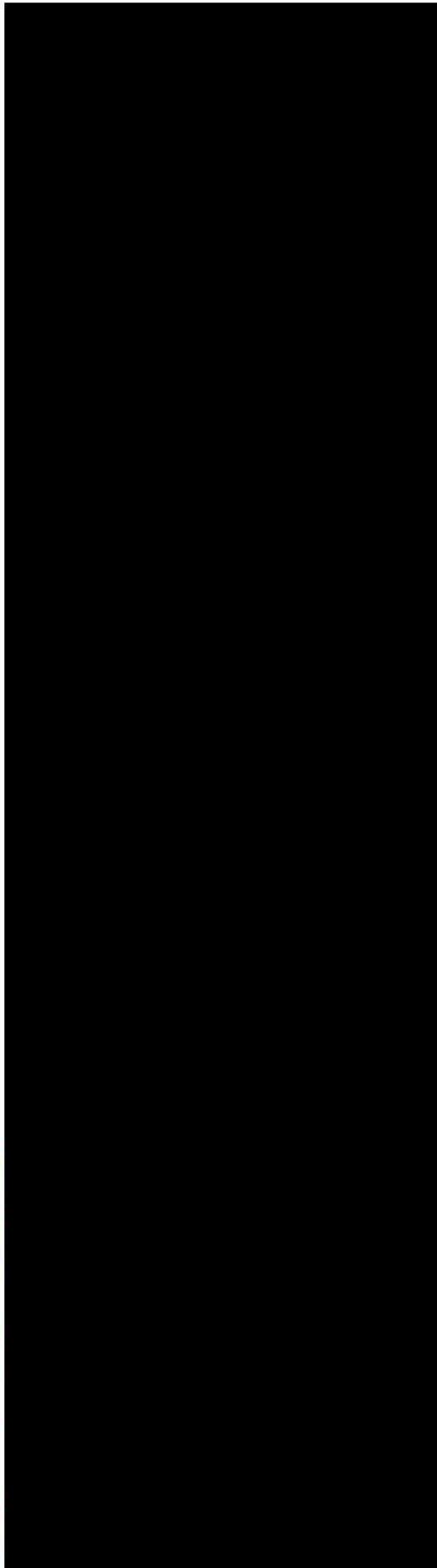
＜別表＞現地の職員配置計画

■組織図

■現地責任者、スタッフの役割等



■勤務ローテーション（通常期の例）



(2) 業務の一部を委託する場合の管理・指導体制の状況

委託業務の実施にあたっては、規程やマニュアルに基づき、業務の進捗に沿って指導監督を行います。

■指定管理者としての点検方法、指導監督等

業務を委託した際には法令順守、品質確保、安全確保、工期厳守、利用者対応に留意して委託業務の指導監督にあたります。監督員と委託先の業務責任者を指定して、日報の提出や現地確認等により指導監督します。また、業務完了後は、完了検査を実施し業務の履行確認を行い、品質確保を図ります。

■具体的な委託業務内容

管理内容	業務内容	主な指導監督項目	点検方法
庭園樹管理、危険木等の処理、病害虫駆除等業務	庭園樹の定期剪定、危険木及び景観支障木等の枝下し・伐採、病害虫薬剤防除	事前に周知看板を設置する等の、安全確保を指導	剪定本数と剪定状況検査、処理本数、処分方法等を点検
建築設備・消防設備等の点検業務	消防設備、水道設備の法定点検、建築基準法による建築設備点検	法令を順守し、資格確認や点検項目の漏れがないように指導	業務報告書類の漏れがないか、点検箇所の間違いがないかを点検
機械警備業務	動作点検、消耗品の交換	適切な利用者対応と迅速な対応について指導	日々の施錠、開錠操作により作動確認。
ゴミ・産廃等処理業務	可燃及・不燃ゴミ及び残材の搬出処分	マニフェストにより事業者と契約を取り交わし実施	廃棄場所・方法について、産業廃棄物管理票により点検
建物清掃業務、トイレ清掃業務	湖畔展望館の床清掃、ワックス掛け、窓掃除、トイレの水洗い及び拭き掃除等	具体的な清掃箇所と清掃方法及び利用者への適切な対応を指導	作業日報により、適切に履行しているか確認

(3) 指定期間を通じて安定して指定管理業務を行うための人材育成や職員採用の状況

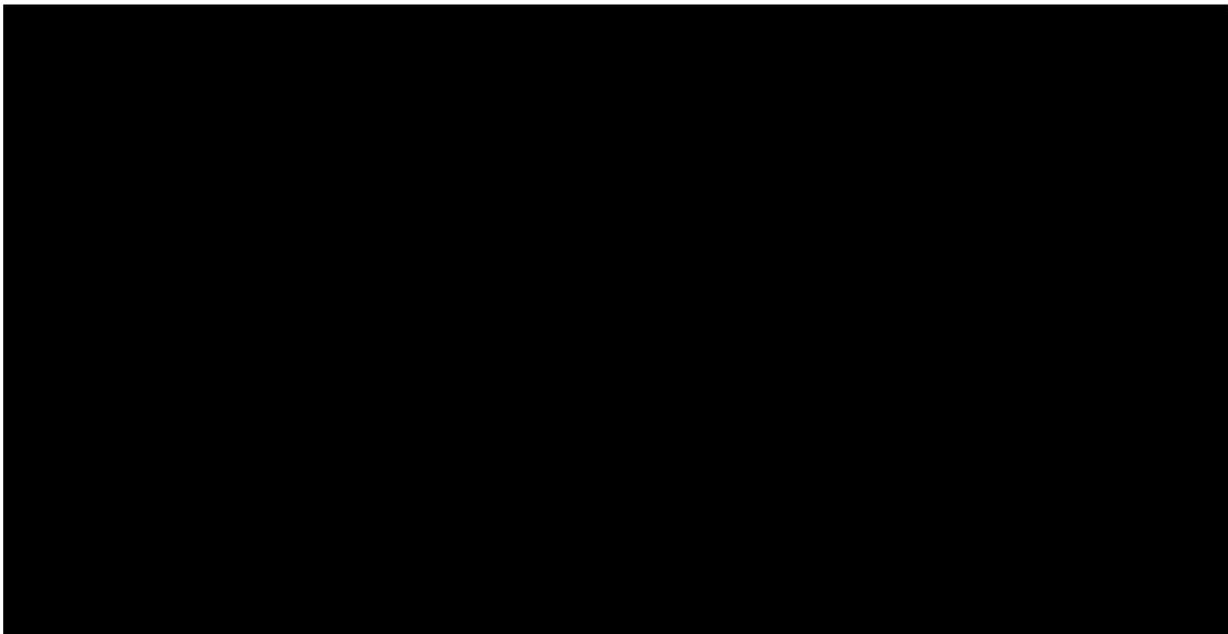
本公園の管理運営にあたっては、緑の中に様々な施設や機能が存在する都市公園として多様な利用ニーズに対応するため、自然生態、植物管理、施設管理、安全管理、利用促進、地域協働など幅広い分野の知識と経験が求められます。

当協会は多様な公園管理業務に対応するため、全員を [REDACTED] として育成することを目標に、職員が積極的に能力開発に取組めるよう制度を整えています。

■人材育成の仕組みの概要

次のような人材育成の仕組みにより、職員一人ひとりの資質の向上を図ります。

【人材育成の仕組み】



■能力開発の取組み

○職務内容に合わせた研修の受講

他公園の先進事例調査や、各種研修に参加する等、利用促進や管理運営マネジメントについての知識や技術を高めます。

○公園の管理運営に活用できる資格取得の推進

公園管理運営士を始めとした資格取得費用の補助を行うなど、積極的に職員の資格取得を奨励しています。

○人材交流等の促進

新たな知識や管理手法等を習得するため、民間企業等との人材交流を図っています。

■職員の「やる気」と「潜在能力」を引き出す仕組み

当協会では、業務実績の向上に努めた職員を公平・平等に評価する「職員表彰制度」や「人事評価制度」を導入しています。これらの制度を適切に運用し、職員の業務の達成感や満足度を高め、職員自らが更なる自己研さんに対する意欲を高め、質の高い管理運営や組織全体の活性化を図ります。

■職員の採用について

当協会では、指定管理業務を着実・安定的に実施するため、公園を愛し、熱意がある、専門知識を有する人材を公募により常に確保しています。

非常勤職員については、地域の雇用促進や災害時の対応を考慮し、できる限り地元の方を採用しています。

提案書 14 「コンプライアンス、社会貢献」

(1) 指定管理業務を実施するために必要な団体等の諸規程の整備、法令遵守の徹底に向けた取組の状況

私たちは、グループ構成団体のそれぞれにおいて「就業、給与、決裁、会計及び個人情報等」に関する諸規程を定め、公開するとともに適正な取扱いを徹底しています。

また、グループ代表である当協会が定めた「コンプライアンス要綱」に基づき、構成団体を含め責任ある執行と法令遵守の徹底を図ります。

■各構成企業の諸規程

種別	内容	各構成企業の規程	
職員の就業	勤務時間、休日、時間外勤務、及び年次休暇、特別休暇、服務、安全衛生、表彰、懲戒等および職員・社員の勤務意欲や業務能率の向上を目的とした表彰制度や提案制度等の整備	当協会	公益財団法人神奈川県公園協会職員就業規程 公益財団法人神奈川県公園協会非常勤職員の雇用、給与、勤務時間等に関する規程
		小田急ランド フローラ	従業員就業規則、懲戒規則
給与	職員の給与や手当についての必要事項	当協会	公益財団法人神奈川県公園協会職員給与規程
		小田急ランド フローラ	従業員賃金規則
会計	適切な会計処理に関する必要事項	当協会	公益財団法人神奈川県公園協会会計規程
		小田急ランド フローラ	経理規則
非常勤職員の雇用等	各構成団体の規程、規則において、非常勤職員の雇用、給与等、勤務時間の割振り、休暇等についての必要事項	当協会	公益財団法人神奈川県公園協会非常勤職員の雇用、給与、勤務時間等に関する規程
		小田急ランド フローラ	臨時従業員就業規則
決裁	業務の執行ならびに人事等に関する決裁に関する必要事項	当協会	公益財団法人神奈川県公園協会職務権限規程
		小田急ランド フローラ	職務権限規則
法令遵守	法令遵守に関する必要事項	当協会	コンプライアンス要綱 コンプライアンスガイドライン
		小田急ランド フローラ	コンプライアンスマニュアル
その他	情報公開、情報保護に関する必要事項	当協会	公益財団法人神奈川県公園協会情報公開規程 公益財団法人神奈川県公園協会個人情報保護規程
		小田急ランド フローラ	コンプライアンスマニュアル

■法令遵守の取組み状況

当協会は、公益財団法人としての使命を自覚し、社会的信頼の維持及び業務の公正性の確保に資するため、「コンプライアンス要綱」や「コンプライアンスガイドライン」を定め、これらを研修等において周知することで、役職員のコンプライアンスの徹底を図っています。なおグループ構成団体においても同様に行われています。

(2) 個人情報保護についての考え方・方針及び個人情報の取扱いの状況

個人情報保護については、グループ構成団体においても「コンプライアンスマニュアル」を定めておりますが、グループ代表である当協会の規程等に即し、利用者の情報をはじめとした各種個人情報を、適正に取扱います。

■個人情報保護のための仕組み

本公園では、様々な個人情報を取扱っており、公園の管理運営に関わる全てのスタッフが、個人情報保護の重要性を認識して業務を行います。

万が一、個人情報の漏えいが発生した場合は、速やかに当協会全体の個人情報管理者である事務局長を始め、関係機関、対象者に報告するとともに、二次漏えいの防止に努めます。

○諸規程の整備

当協会では、県の個人情報保護条例及び指定管理者と県が締結する基本協定書に基づき、「公益財団法人神奈川県公園協会個人情報保護規程」を定め、さらに同規程第9条（個人データの適正管理）を受け作成した「個人情報の扱いに関するガイドライン」において具体的な取扱い事項を定める等、適切な諸規程を整備しています。

○取扱いの徹底

・管理責任者の明確化

公園ごとに個人情報取扱責任者を配置し、ガイドラインに沿った個人情報の取扱いを行います。

・研修等による職員への周知徹底

毎年実施する協会全体の職員研修、各公園の定例の全体会議等において、「個人情報の扱いに関するガイドライン」に基づいた研修や、パソコン管理者向けに適切なデータ管理についての研修を実施します。

・県の「PDマーク」に登録

県の「PDマーク（個人情報取扱業務登録制度）」に登録しており、当協会の管理する個人情報は適切に取扱われていることを利用者等へ明らかにします。

・パソコンデータの取り扱いに関するセキュリティの強化

個人情報は主にパソコンデータにより管理していることから、適切なデータ管理を行なうとともに、コンピュータウイルスへの感染や外部からの不正アクセス等によるデータ流出の防止に取組んでいきます。

※情報公開の申出があった場合は「公益財団法人神奈川県公園協会情報公開規程」の定めにより、個人情報等の除外事項を除き、情報を開示します。

(3) 指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況

公園は神奈川県の豊かな緑を構成する一部であり、自然の多様性に触れ、自然を大切にする心を育む場所です。従って、環境配慮の重要性について普及啓発するための重要なフィールドであると捉えています。

本公園の管理運営にあたっては、「神奈川県環境方針」を踏まえた取組みを行います。

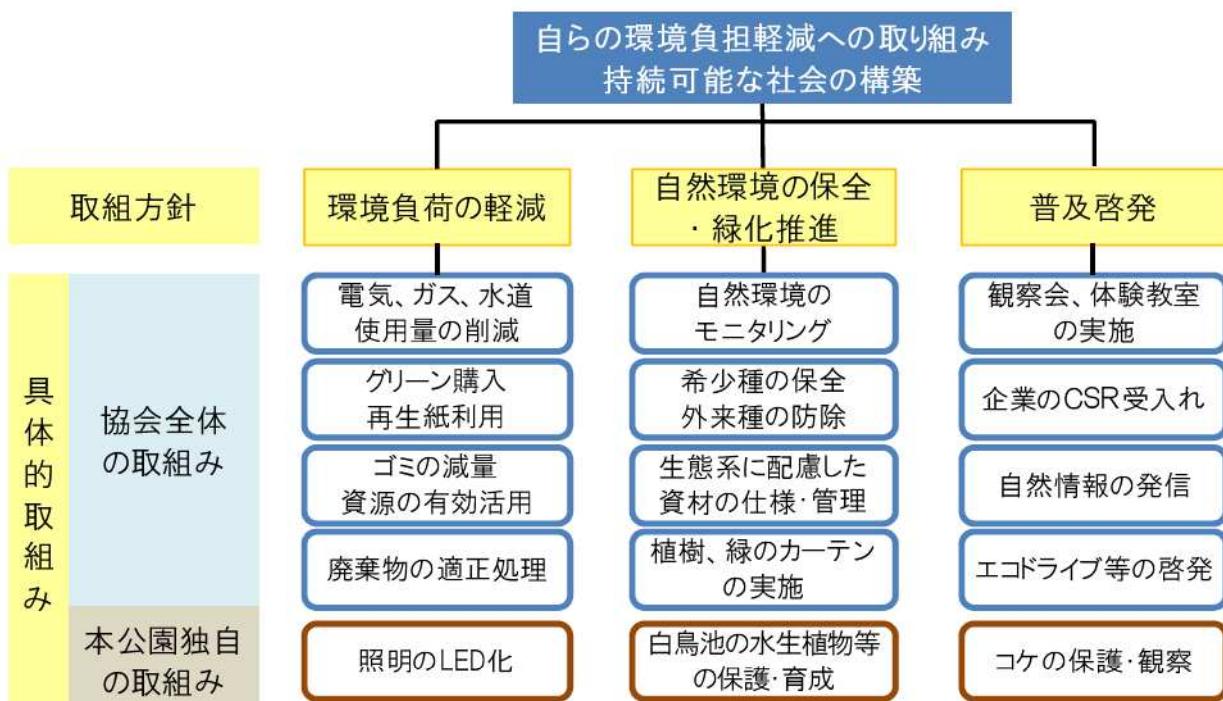
■独自システムによる総合的な環境マネジメントの実践

当協会は、「エコアクション21」を参考として独自に構築した環境マネジメントシステムにより、総合的な環境マネジメントを推進し環境負荷の軽減と生物多様性の保全を図っています。

○当協会の環境マネジメントシステム (Ecological Management System) の特徴

これまでの都市公園や自然公園における協会の取組みを踏まえ、環境負荷の軽減とならんで、自然環境の保全・緑化推進、普及啓発を大きな3つの取組方針としたシステムです。

当協会では、年1回、自己評価を実施しながら引き続きPDCAサイクルによるシステムの運用を行っていきます。



○システム推進のための組織体制

当協会で管理運営する各公園に「エコリーダー」を置き、公園協会本部に体制の統括責任者として「環境代表者」を配置し、様々な取組みの実施と実績について、年1回、評価を行います。その結果をPDCAサイクルにより、継続的に改善を図っていきます。

■環境負荷軽減の具体的取組み

- 不要な照明や電子機器類の電源オフ、クールビズ・ウォームビズの推進
- グリーン購入（トイレットペーパー・コピー用紙、石灰）、再生紙利用の推進
- 自主財源により公園事務所および建物内の照明をLED化
- 作業用EV軽トラックを導入し、環境負荷の少ない作業を実施
- 間伐・枝落としによる発生材のチップ化による資源循環型維持管理

■自然環境の保全と緑化推進の具体的取組み

- 園内の植生や、野生動植物など自然環境の調査の実施（カモの飛来調査等）
- 外来植物オオハンゴンソウ、オオキンケイギク等の除去
- 「都市公園農薬使用指針」、「病虫害雑草防除基準」を遵守した農薬の使用

■普及活動を通じた利用者・地域への発信の具体的取組み

- 公園周辺アクセス道路における清掃活動「ゴミゼロアクセス」の実施
- 地元企業のCSR活動受け入れ
- 屋外掲示板に季節毎の生物写真の展示と解説による自然情報発信
- 看板・チラシによるアイドリングストップの呼びかけで、エコドライブの啓発

(4) 障害者雇用促進の考え方

公園は、障がい者にとって憩いの場でもありますが、一方で働きやすいフィールドでもあります。当グループでは、障がい者が業務を行う上でのハンディキャップの解消に努め、より働きやすい環境づくりに取組みます。

今後の本公園の管理運営にあたっては、特別支援学校の生徒の就労に向けたインターンシップ（就労体験）の受け入れに協力します。また、地域の障がい者雇用を促進するため、当協会における就労機会の提供に取組みます。

■法定雇用率上回る雇用努力

当協会全体では、平成25年度現在、6公園7人を雇用（障がい者カウント数4.5人）

■障がい者雇用を行う企業等への積極的な業務発注

私たちは、障がい者の直接雇用に加え、障がい者就労施設への積極的な業務発注に努め、地域の障がい者支援施設の施設外就労を支援しています。

対象施設・事業	具体的な作業
相模原公園	除草、清掃等公園内の維持管理作業
辻堂海浜公園	園内の清掃
相模三川公園	軽飲食の販売
茅ヶ崎里山公園	除草、清掃等公園内の維持管理作業
当協会花苗事業	花苗の株分け等

※障がい者の法定雇用率の高い企業へ優先的に発注する仕組みづくりにも取組んでいきます。

提案書 15 「これまでの実績」

(1) 指定管理施設と類似の業務を行う施設等での管理実績の状況

■神奈川県公園協会の管理運営実績

当協会はこれまで、数多くの県立都市公園や自然公園ビジターセンター、山岳スポーツセンター等、様々な公の施設の管理運営に携わってきました。各施設の特性に応じた管理運営を行う中で、公益的な事業展開により地域社会への貢献を続けてきました。

○県立都市公園における施設管理実績と評価

平成 21 年度からの指定管理期間において、当協会では 16 公園の指定管理業務を行ってきました。

このうち、県の指定管理業務評価において、平成 22 年度には 4 公園、平成 23 年度には 3 公園、平成 24 年度には 5 公園で、「特に優良」の評価を得ることができました。その他のほとんどの公園についても、「優良」の評価を得るなど、着実な管理運営を行ってきました。

管理施設名	指定管理期間	所在地	平成 24 年度 指定管理 業務評価	備 考
塚山公園	平成 18 年 4 月～ (保土ヶ谷公園・境川遊水地公園は平成 21 年 4 月～)	横須賀市	優良	グループによる管理
保土ヶ谷公園		横浜市保土ヶ谷区	優良	
葉山公園		葉山町	良好	
はやま三ヶ岡山緑地		葉山町	優良	
恩賜箱根公園		箱根町	特に優良	グループによる管理
辻堂海浜公園		藤沢市	特に優良	グループによる管理
湘南汐見台公園		茅ヶ崎市	優良	グループによる管理
相模原公園		相模原市南区	特に優良	グループによる管理
大磯城山公園		大磯町	優良	
七沢森林公園		厚木市	優良	
座間谷戸山公園		座間市	優良	
秦野戸川公園		秦野市	特に優良	
津久井湖城山公園		相模原市緑区	特に優良	
茅ヶ崎里山公園		茅ヶ崎市	優良	
相模三川公園		海老名市	優良	
境川遊水地公園		横浜市戸塚区・泉区	優良	

○その他の類似施設の管理実績

当協会では、県立都市公園以外にも様々な施設の管理運営も行い、その手法やノウハウを県立都市公園の管理運営にも活かしてきました。

【指定管理業務】

管理施設名	指定管理期間	所在地	備 考
県立山岳スポーツセンター	平成 21 年 4 月～ 平成 27 年 3 月	秦野市	
町立大磯運動公園	平成 20 年 4 月～ 平成 23 年 3 月	大磯町	グループによる管理

【管理受託業務等】

管理施設名	管理期間	所在地	備 考
県立いせはら塔の山緑地公園	平成 19 年 4 月～	伊勢原市	単年度毎の管理業務受託
県立陣馬自然公園センター	平成 7 年 4 月～	相模原市緑区	〃
県立宮ヶ瀬ビジターセンター	平成 7 年 4 月～	清川村	〃
県立丹沢湖ビジターセンター	平成 8 年 4 月～	山北町	〃
県立西丹沢自然教室	平成 8 年 4 月～	山北町	〃
県立秦野ビジターセンター	平成 9 年 7 月～	秦野市	〃
県立ユーシンロッジ	平成 19 年 4 月～ 平成 24 年 3 月	山北町	〃
大涌谷園地駐車場	平成 7 年 4 月～	箱根町	運営業務受託



町立大磯運動公園



県立いせはら塔の山緑地公園



県立西丹沢自然教室

◆◇ 類似公園における管理運営実績 ◇◆

大磯城山公園：別邸当時の庭園を復元する管理運営

大磯城山公園は、三井財閥と吉田茂がかつて別荘を構えた場所としての由来があり、かつ富士山の眺望が美しい事でも広く知られる点において、本公園と極めて類似した特色があります。

大磯城山公園でも、別荘当時の景観の復元・再生を管理運営方針に定め、主に次のような取り組みを進めてきました。

- ・旧三井・旧吉田両別邸当時の雰囲気の復元と再生
- ・地域と連携したイベント実施と大磯の邸園文化の発信
- ・茶室や北蔵を活用した快適なくつろぎ空間の提供



展望台から望む富士山



旧吉田茂邸地区

■小田急ランドフローラの管理運営実績

小田急ランドフローラは「園芸文化の普及を通じて人々の豊かで美しい生活環境を目指す」ことを企業理念に花の販売、フラワーイベントの開催、草花や樹木の育成管理など神代植物園を始め大規模な公園の緑地管理を手掛けてまいりました。

【都市公園施設】

管理施設名	管理期間	所在地	管理形態
恩賜箱根公園	平成 21 年 4 月～	箱根町	管理業務受託・指定管理
神代植物園	平成 19 年 4 月～	東京都調布市	植栽管理業務受託・バラ園保護管理
昭和記念公園	平成 14 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	東京都立川市	植栽管理業務受託・草花管理
大蔵運動公園	平成 17 年 4 月 ～平成 21 年 3 月	東京都世田谷区	植栽管理業務受託・バラ花壇保護管理

【その他類似施設】

管理施設名	管理期間	所在地	管理形態
富士山交流センター (樹空の森)	平成 23 年 4 月～	静岡県御殿場市	管理業務受託・指定管理
アグリス成城	平成 19 年 5 月～	東京都世田谷区	管理業務受託・菜園管理
新宿サザンテラス	平成 10 年 4 月～	東京都新宿区	植栽管理業務受託・植栽維持管理
大妻学院	平成 10 年 4 月～	東京都多摩市	植栽管理業務受託・植栽維持管理
星の王子さまミュージアム	平成 24 年 4 月～	箱根町	植栽管理業務受託・植栽維持管理
藤子 F 不二雄ミュージアム	平成 24 年 4 月～	川崎市	植栽管理業務受託・植栽維持管理



神代植物園



富士山交流センター(樹空の森)